

したがって、今後は、各地域における生徒数の推移を見極めながら、地域の実態に応じた適正な学校配置を促進する必要があります。

ウ 学校規模

昭和56年度から平成4年度までの12年間の学級別学校数の推移をみると、どの年度においても11学級以下の小規模校が多く、学校教育法施行規則第55条にいう標準学級数である12学級から18学級の学校は、平成4年度においては、58校で全校比23.8%(昭和56年度47校, 18.9%), 31学級以上の過大規模校は2校となっています(表5-2)。

小規模校は減少傾向にあるものの、4学級以下の学校数が多いのは、本県の地理的、社会的条件によるものです。

したがって、今後は、学級数の変動や地域の実情を考慮しながら、学校規模の適正化に努める必要があります。

【高等学校】

ア 進学率

本県の高等学校等への進学状況を進学率でみると、昭和63年度以降、平成3年度までは93%台で推移し、平成4年度は94%台になりましたが、全国との差はいまだに1.6ポイントあります(図5-3)。

また、男女別では、女子に比べ男子の進学率が低く、地域別では、いわき、相双、県中の3地域が県平均を下回っています。

したがって、今後は、人口動態による過疎・過密の進行状況を精査し、中学卒業生数の減少に伴う適切な募集定員の策定を図り、特に、進学率の低い地域に配慮しながら進学率の向上に努める必要があります。

イ 入学定員と生徒数

中学校卒業生数は平成元年度をピークとして、それ以降は減少してきていますが(図5-4)、志願率は、今後、各地域とも少しずつ上昇していくものと予測されます。

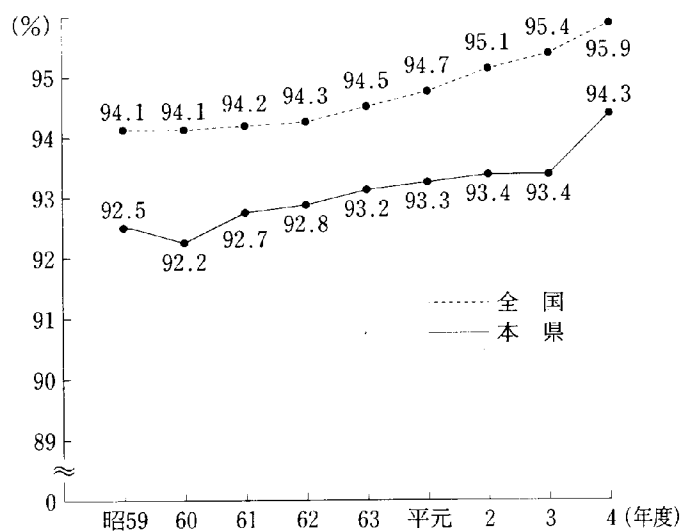
また、全日制高等学校の入学定員は、平成2年度までは増加傾向を示していましたが、それ以降は減少に転じています。生徒数を課程別にみると、全日制課程では増加していますが、定時制課程では

表5-2 学級数別学校数

学級数 年度	0~4	5~11	12~18	19~25	26~30	31~39	計
56	55	110	47	26	8	2	248
57	53	112	47	22	11	3	248
58	58	103	47	23	11	3	245
59	63	99	47	26	11	1	247
60	63	97	48	26	11	2	247
61	64	92	51	26	12	1	246
62	59	93	49	31	11	2	245
63	58	92	55	30	9	1	245
元	56	92	57	29	10	1	245
2	56	86	63	29	10	1	245
3	56	85	59	33	9	2	244
4	58	84	58	34	8	2	244

(注) 学校数は、公立のみである。
(資料) 「学校統計要覧」(昭和56年度~平成4年度)

図5-3 進学率の推移



(注)
$$\text{進学率} = \frac{\text{高等学校への進学者数}}{\text{中学校卒業生数}} \times 100$$

(資料) 「福島県統計調査課編 学校基本調査報告書」から作成